

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

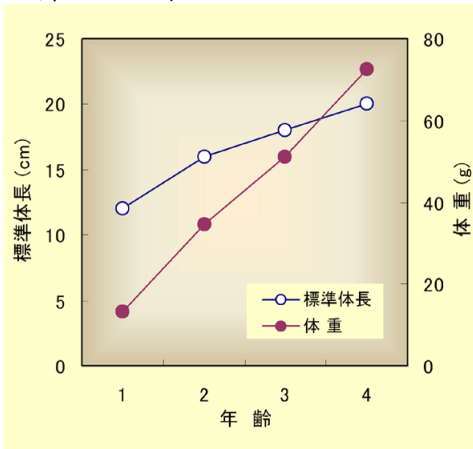
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 1.5歳
産卵期・産卵場: 周年(ピークは春季と秋季)、産卵場は不明
索餌期・索餌場: 周年、水深100~200m
食性: 浮遊性小型甲殻類
捕食者: ヒラメ、ソウハチ、ムシガレイ、アカムツ等

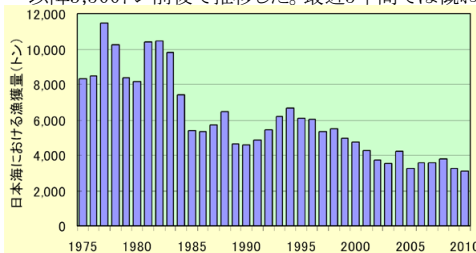


漁業の特徴

本種の主な漁場は青森県〜島根県の日本海沿岸と、愛知県および高知県の太平洋沿岸に形成され、総漁獲量の7~8割が日本海沿岸で水揚げされる。日本海の本州沖合において、本種は水深100~200mに分布しており、主として沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)で漁獲される。日本海では、新潟、石川、兵庫、島根の4県での水揚げが多く、これら4県で日本海側総漁獲量の約9割を占める。

漁獲の動向

日本海における漁獲量は、1975~1983年は10,000トン前後で推移していたが、1984年以降減少傾向となり、1990年には約4,600トンとなった。1991年以降は増加に転じ、1994年に6,600トンに達したが、その後再び減少し、2002年以降3,500トン前後で推移した。最近5年間では概ね横ばい傾向にあるが、2010年は過去最低の3,093トンとなった。



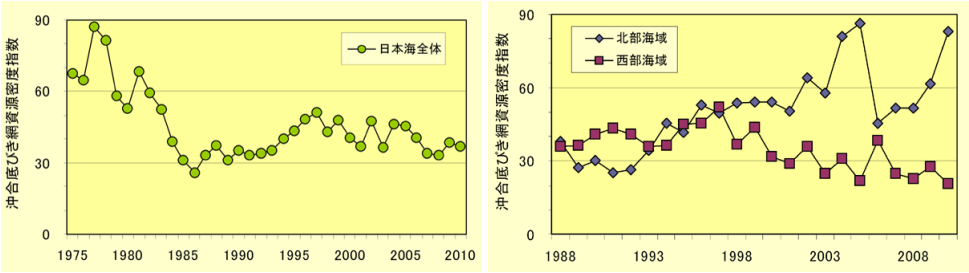
資源評価法

日本海全体における沖底(1そうびき)による資源密度指数を資源評価の指標値として、本系群の資源状態を判断した。また、近年、本系群の資源状況は海域によって異なる傾向があり、日本海を北部海域(加賀沖以北)と西部海域(福井以西)に分けた場合の沖底(1そうびき)の資源密度指数も考慮した。

資源状態

資源密度指数は1977年をピークに1986年まで減少し、1987~1997年に増加した。その後、増減を繰り返しながら推移した。近年5年間は横ばいで推移しているが、長期的にみると、1997年以降は緩やかな減少傾向にあった。1997年以降における北部海域と西部海域の資源密度指数は、変動傾向が大きく異なった。北部海域では横ばいから変じて増加傾向にあり、2010年は2004、2005年に並ぶ高い値を示した。一方、西部海域では減少傾向にあり、2010年はこれまでを下回る値を示した。





管理方策

近年の沖底の資源密度指数は横ばい傾向にあり、2010年の資源水準は中位、動向は横ばいと判断した。しかし、長期的に見ると1997年以降の資源密度指数は減少傾向にあった。さらに、減少を続ける西部海域の資源密度指数は低位水準の範囲に至っていた。以上のことから、現状の資源水準を維持し資源の悪化を避けるため、漁獲圧の削減を管理方策として提言した。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,000トン	0.9Cave3-yr	—	—
ABCTarget	2,400トン	0.8・0.9Cave3-yr	—	—

- 100トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は横ばいであるが、長期的には減少傾向
- 西部海域の資源状態が悪化

管理方策のまとめ

- 現状の資源水準を維持し資源の悪化を避けるため、漁獲圧を削減

執筆者: 松倉隆一・養松郁子

資源評価は毎年更新されます。